海賊被害、自己防衛の対策急務

記者の視点

海賊被害が多発しているソマリア沖で先月20日、国内海運が関係する外航貨物船が再び海賊の襲撃を受けた。

同船の船舶管理を行っている明治海運グループの「エムエムエス」（本社・東京）によると、被害に遭ったのはパナマ船籍のハンディマックス「ステラマリス」（52、454重量トン、2007年竣工）。フィリピン人船員20人が配乗、豪州からスペインに向け鉛や亜鉛を輸送中に海賊の襲撃を受けた。関係者によると、同船は国内船主が所有、エムエムエスが船舶管理を担当し、欧州船社に用船貸し出しされていたとみられる。

ステラマリスは不定期船事業で特有の、所有と運航、船舶管理の各担当会社が横断的なケースで、船籍、乗組員の点がいずれも海外。このことから、日本に本拠を置く会社の所有船でありながら、日本政府が直接関与しにくい、いわゆる「日本関係船」に位置付けられる。

日本関係船の危機管理

国際海事局（IMB）によると、ソマリアでの海賊事件は2007年に31件と前年比3倍に増加、このうち人質をとるシージャックは11件に達した。国連安全保障理事会も今年6月、同地域での監視強化を強める採択を決議しているが、急増する海賊行為が減少するか未知数だ。

世界で多発する海賊被害に対し、邦船各社も本格的に危機管理対策を強める時に来ている。ここでいう危機管理対策とは、今回のような日本関係船の場合である。

過去、同様な海賊被害でも日本籍や日本人が乗り組んでいる外航船に対しては外務省や国土交通省が情報を収集、関係船社と連携して日本政府が直接解決に向け動いてきた。

07年に米原子力潜水艦の接触を受けた川崎汽船の大型原油タンカー「最上川」や、今年4月に不審船から襲撃を受けた日本郵船の「高山」などがそのケースである。両船とも日本籍であり日本人船員が乗船していたため、日本政府として国民の財産、生命を守る観点から積極的に動く義務が発生する。

しかしながら、現在の日本商船隊において日本籍船であり日本人船員が配乗している船舶はレアケースであるのも事実である。

日本籍船についてみれば、06年7月時点で日本商船隊222隻のうち日本籍はわずか95隻、全体の4％にすぎない。大半は税制や規制面から便宜置籍国と呼ばれるパナマ、リベリアなど海外に船籍を移している。「トン数標準税制」の導入で日本籍船の増加も期待されるが、現状では外航海運の大半が便宜置籍船であり、外国人船員の乗り組みとなる。

日本関係船が海賊被害にあった場合、船舶管理や船主、運航船社自体が直接解決に当たらなければならない。民間の海運関係者は接触事故や座礁など、船舶の運航自体で発生した事故に関しては危機管理対策は確立されている。実際、日本郵船や川崎汽船を筆頭に、毎年、事故発生の模擬訓練を外部の人間を交え大規模に行っている。

しかし、一方で海賊被害といった武装勢力との事件に対し、民間企業ができる対策は限られている。マラッカ海峡では海賊対策として沿岸部の警備組織と連携して訓練を行う会社もあるが、「ソマリア沖では武装自体が大掛かりで訓練などできない（船舶管理会社）」のが実情だ。

国内海運の所有船でありながら、政府も介入できないこうした日本関係船は、いわば安全対策の落とし穴としてすっぽりと抜け落ちている。しかしながら、今後、被害の多発が予想されるのは確率的にいえば日本関係船であることは間違いない。

大手海運を中心に邦船社の船隊整備は急増している。これは直接、船舶を運航しているオペレーター（運航船社＝海運）だけでなく、船舶を貸している船主、船舶管理会社にとっても同様の状況といえる。政府が直接関与できない以上、日本関係船の被害に対し、外部の危機管理コンサルタントなどを導入すべき時ではないか。「事故」と「事件」の境界線を区別し、今まで重視してきた事故に加え、今後は事件に対する対策が海運各社に求められる。

山本裕史

Cruise

HAL　来年のメキシコクルーズ　スケジュールを確定

米国ホーランドアメリカライン（HAL、本社・シアトル）は、来春と秋以降に運航するメキシコ西岸クルーズのスケジュールを確定した。来シーズンは、「オーステルダム」（82、000総トン、定員1848人）と「ラインダム」（55、819総トン、定員1258人）の2隻を配船、今季とは異なる新寄港地を盛り込む。

夏のアラスカクルーズの前後を中心に、春と秋に運航するメキシコ西岸クルーズは、北米各地からアクセスが良いサンディエゴを母港に運航している。来シーズンもこれを踏襲し、7泊をメーンに10泊から15泊といったやや長めのコースも用意する。

「オーステルダム」は年明けの1月から2月下旬にかけて、毎土曜日出航の7泊に配船される。寄港地は、従来コースのカボサンルーカス、マサトラン、プエルトバヤルタに加え、新たにバヒアマグダレナに寄る。同港周辺はクジラやイルカなどの観察地として知られるほか、ワシやペリカンといった大型鳥類も見られるという。

「ラインダム」は、2月から4月下旬までが10泊、10月から11月下旬は7泊でメキシコ西岸を巡る。春はプエルトバヤルタやマサトラン、カボサンルーカス、ラパスなどに寄港、秋は「オーステルダム」が運航する春のコースを予定する。

また、来夏のアラスカクルーズに就航する「ラインダム」は、バンクーバーとサンディエゴを結ぶ回航クルーズとして、春と秋に2週間の特別コースも計画する。

ＰＯＡ　病院に遊具寄贈

南太平洋バヌアツで

オセアニアや南太平洋をメーンに運航するP&Oクルーズ・オーストラリア（POA、本社・シドニー）は先月末、人気寄港地の一つ、バヌアツのポートビラの病院に子供たちが安心して遊べる遊具を贈った。同社では、「日ごろ寄港地として地元から温かいもてなしを受けたことに対する感謝の意を込めた」と説明する。

同社が贈った遊具は、先月上旬にシドニーを出航した「パシフィックドーン」（70、000総トン、定員2050人）でバヌアツまで運ばれた。地元のボランティア団体がこれを受領、子供たちが遊べるようにポートビラの病院に設置した。公園で見かける小型の滑り台をアレンジした遊具だが、ボランティア団体では「これを頂いたことで、病院を訪れたり、入院している子供たちが安心して遊ぶことができる」と、船社に感謝のメッセージを贈った。

シドニー港を母港とする「ドーン」は、バヌアツなど南太平洋の島々をメーン寄港地とし、8泊から2週間を超えるさまざまなクルーズに配船されている。

ＮＣＡ　環境ＩＳＯ取得本格化

全社統合認証へ

日本貨物航空（NCA）は7月の組織改編で新たに「安全・環境本部」を設け、環境マネジメントの国際規格ISO14001の認証取得に向けて本格的な活動を開始した。今年度中に国内全事業所での統合認証取得を目指す。

NCAによると、これまで日本の航空業界では整備ハンガー（格納庫）など部署ごとに個別に同認証を取得する例はあるが、今回のように全社一体で同時取得に挑戦する例は初めてという。

同本部の設置は7月1日付。現在、この活動の中心となる環境室が各部門とともに、企業活動が環境に与える影響を抽出し、その整理と新たな課題設定・運用に取りかかっている。今後はそれらの社内検証と調査を経て、認証機関であるLRQA（ロイドレジスター）の審査を受ける予定。

同社では、来年春に成田で初めてとなるエコハンガーの稼働、同年後半に世界で最も優れた環境性能を有する最新鋭次世代機ボーイング747―8Fの導入をそれぞれ予定しており、今後も顧客に最高品質の輸送サービスを提供するとともに、航空貨物業界の環境先進企業を目指すという。

クアラルンプール空港管理会社　ＫＷＥに感謝状

環境保全貢献で

近鉄エクスプレス（KWE）は7月31日、マレーシア現法「近鉄インテグレーテッド・エア・サービス」（KWEマレーシア）がクアラルンプール空港内の貨物上屋での環境保全に貢献したとして、空港管理会社の「マレーシア・エアポーツ」から感謝状が贈呈されたと発表した。

フォークリフト用の軽油の管理方法として、空港上屋に入居する全フォワーダーが利用できるよう、保管タンクのデータや管理マニュアルを公開したことが、空港管理会社から高く評価された。

空港上屋に入居するフォワーダーは通常、軽油をドラム缶で保管し、給油はハンドポンプを利用する方法が一般的だった。KWEマレーシアは2004年6月に環境マネジメントの国際規格「ISO14001」を取得したことを機に、給油時に漏れないよう設計された保管タンクを利用する方法に変えていた。

ラウンジ

水田裕一郎・飾磨海運社長

開港50周年に向け知恵を絞る

来年、開港50周年を迎える姫路港。仕事のかたわら、地元の商工会議所でも積極的に活動している水田さんは、何とか市民の目を港に向けさせようと日夜、有志とともに知恵を絞っている。

「50周年を節目として業界関係者の関心は高まるだろう。ただ、市民一人一人が港の役割を十分に理解してくれることも大切で、そのために何をすべきなのか、今いろいろと考えている」

そうはいっても、来年の予算でできることは限られる。しかも、「一過性に終わらず、将来を担う子供たちにも何かを伝えたいとなると、なかなか収拾がつかない」と苦笑する。

盛り上げるためのプレイベント、そして本番の記念行事など、これからますます忙しくなる。ただ、「皆が喜ぶことを一からつくりあげる醍醐味と、その達成感は格別」と目を輝かせる。

こうしたメンバーがいれば、来年の開港50周年イベントも大いに期待が持てそうだ。

宮﨑尊徳・佐世保重工業取締役専務執行役員新造船事業部長

ＬＰＧ船で新興ヤードに対抗

「従来、新興造船所は小型船から建造を始めて、経験を積んだ後にパナマックスなど中、大型船に移行してきた。昨今は最初からパナマックスやアフラマックスの船型を建造するところさえある。一瞬にして追いつかれる気分だ」

LPG（液化石油ガス）船の建造に乗り出す佐世保重工業。新規船種への参入について7月30日に東京都内で記者会見した宮﨑さんは、新興造船所の建設が海外でラッシュし、競争が激化することに対する一つの営業戦略である点を説明した。

LPG船を選んだ理由として、新興造船所がすぐにまねできない高度な技術が必要なことと、LNG（液化天然ガス）船ほど設備投資が巨額にならずに建造できる点を挙げた。

第1船は三光汽船向けで納期は2013年12月末まで、タンク容量は8万4500立方㍍と世界最大級の大型LPG船（VLGC）となる。

記事INDEX

先週の動き　7月28日―8月1日

1　面

■28日

海運大手3社／ドライバルク高市況収益けん引。通期予想増額修正。商船三井、経常増益に

海運大手3社／コンテナ船部門、燃油高で苦戦

自動車船部門／北米向け以外、今後も好調維持

豪州滞船102隻／西豪州で減少

重量物船「B・スカイセイルズ」横浜寄港／「大型たこ」で燃費2割削減

「海の日」海事功労者表彰式／冬柴大臣がエール：「さらなる活躍を」

■29日

北米鉄道6社／1－6月期：米4社が営業増益。カナダ2社は減益に

外航海運への独禁法適用／米国、「除外」維持。コノートン米国海事局長が言明

神戸海事クラスター構想／「教育」「人材」連携進む。「官学」先行、「産」が鍵

プロロジス／ロシアに初進出へ。モスクワなど3都市で用地確保

海運大手不定期専用船部門／想定以上の市況水準。「取り込み限定的」の見方も

ジンフイ／61型バルカー1隻新造買船

ＮＣＡ／4－6月期：経常赤字額が半減

■30日

ＴＳＡ／ＩＦＳ徴収へ本腰。陸送費高騰に対応

海運大手の定期船事業／バンカー上昇で赤字。苦境脱出、決め手見えず

韓国船社／阪神航路減便、調整難航で9月にずれる

大口・国交省総合政策局長／「燃油価格転嫁、荷主理解求める」

新日鉄八幡／原料炭輸送減少も。火災事故で減産濃厚

不定期船市況／ケープ大幅軟化

ＶＬＣＣ市況／韓国向けシングル、ＷＳ205

豪州滞船／鉄鉱石積み地・西豪州で減少。計100隻

ツァコス／新造アフラマックス2隻、30－90日短期貸船

自動車各社／1－6月輸出：トヨタ3.4％増、日産自55％増

ＦＩＡＴＡ／9月の世界会議でフォーラム開催

■31日

佐世保重工業／大型ＬＰＧ船に参入。第1船は三光向け。高付加価値船で新興ヤードに対抗

東京スター銀／船舶与信1000億円突破。2年間で3倍増。新造船需要に積極対応

三井物産・日本ユニシス／モノの流れ一目瞭然、「ＵＮＩＴＲＡ」運用開始。ＩＣタグとネット融合

北米西岸／スト回避。労使、新協約に基本合意

国交省／日本籍船・船員確保計画認定制度、きょう実質スタート。省令施行

ＪＡＬカーゴ／未通関航空貨物の直接搬入を商品化。成田・関空・中部3空港で

太平洋海運／今期最終赤字5.4億円に下方修正

ＯＳＧ／6月中間：純利益22％増

不定期船市況／全船型で軟化基調

■1日

ＩＭＣ／修繕船事業で世界網。南米2社とも提携交渉

規制改革省庁1次回答／外国人船員承認制度：国交省、検討会設置▷3大湾の港湾機能統合要望：国交省「積極的に検討進める」

国交省／日本船舶・船員確保の基本方針を告示

海外投資銀行／国内船主の全株取得か

欧州西航／競争激化に警戒感。北米急減速で集荷に動く。市況予断許さず〝神経戦〟

日通／今期、経常減益へ。燃油価格高騰が響く

4－6月▷期飯野海運／ビル収入減響き経常益3割減▷明治海運／経常益2.5倍増

2　面

■28日

北米復航／韓国・台湾向け伸長続く。07年以降2けた増ペース

京浜3港包括連携／千葉港との関係強化へ。都港湾局長が初めて示唆

近鉄エクスプレス／上海向け急送サービス、中部空港でも開始

【ひと】苫小牧港管理組合専任副管理者・佐々木秀郎氏／俯瞰的な視点で港湾経営戦略練る

キューネ／北伊に冷凍食品配送センター

東京団地倉庫／4－6月の入出庫1年ぶりに減少

4－6月期決算▷郵船航空サービス／経常益5％減▷三洋電機ロジスティクス／経常益21％増

■29日

プロロジス／シュワルツＣＥＯ会見。欧州・アジアへの投資強化。印・中東の開発本格化▷本社機能、東京に来月中旬まで移転。決算役員会も開催

ＮＹ・ＮＪ港／能力強化に向け調査。貨物需要急増に対応

北米西岸7港／上半期コンテナ：累計1％増12万4000ＴＥＵ。プラスは2港と苦戦

国交省港湾局／水辺空間利用官民研究会、あす発足。年度末に報告

ＪＡＦＳＡ／都内でセミナー。ＡＩＳ利用「船舶動静把握」を解説。飯垣会長「経済低成長を業界の好機に」

バンテック／ＩＣタグ管理システム、物流センターでの作業状況が一目で

日豪航路／来月8日からＢＳを値上げ

富士物流／4－6月期決算：経常益35％増

キムラユニティー／4－6月期決算：経常益4割減

■30日

京都舞鶴港／和田埠頭供用後の利促策検討。11機関で連絡調整会議設置

西鉄／マニラ首都圏に現法。来月1日営業開始、比域内の取り扱い拡大

サバンナ港／08年会計年度コンテナ：15％増269万ＴＥＵ、過去最高を更新。実入り輸出、初の100万ＴＥＵ超

国交省／トラック燃料サーチャージ、荷主要請など追加対策

横浜市／1日に市港湾審幹事会。計画の軽易変更案審議

大阪府港湾協会／新会長に金盛氏

ＡＰＬ／印のコンテナ鉄道輸送順調

ニチレイ／4－6月期決算：経常益30％増

中国ＣＯＳＣＯ／エアバスの部品、中国まで輸送

■31日

日通総研／物流短観7－9月見通し：外貿コンテナ拡大に減速感

日本郵便／仏郵政公社と提携。国際物流などで協力

松下電池工業／リチウム2次電池工場、大阪港湾岸に建設。12月着工、10年4月稼働

ロジ人事担当者会議／物流・ＩＴ10企業・団体、新卒採用に向け意見交換。就職イベントの早期化・学生の大企業志向顕著

宮城県／仙台塩釜港長期構想案で意見募集結果を公表

4－6月期決算▷ヤマトホールディングス／経常益26％減▷東海運／経常益3割減▷日立物流／経常益25％増

■1日

神戸港／コンテナターミナル24時間化、きょう第1回協議会

薩摩川内港ポートセミナー／順調な港勢拡大強調

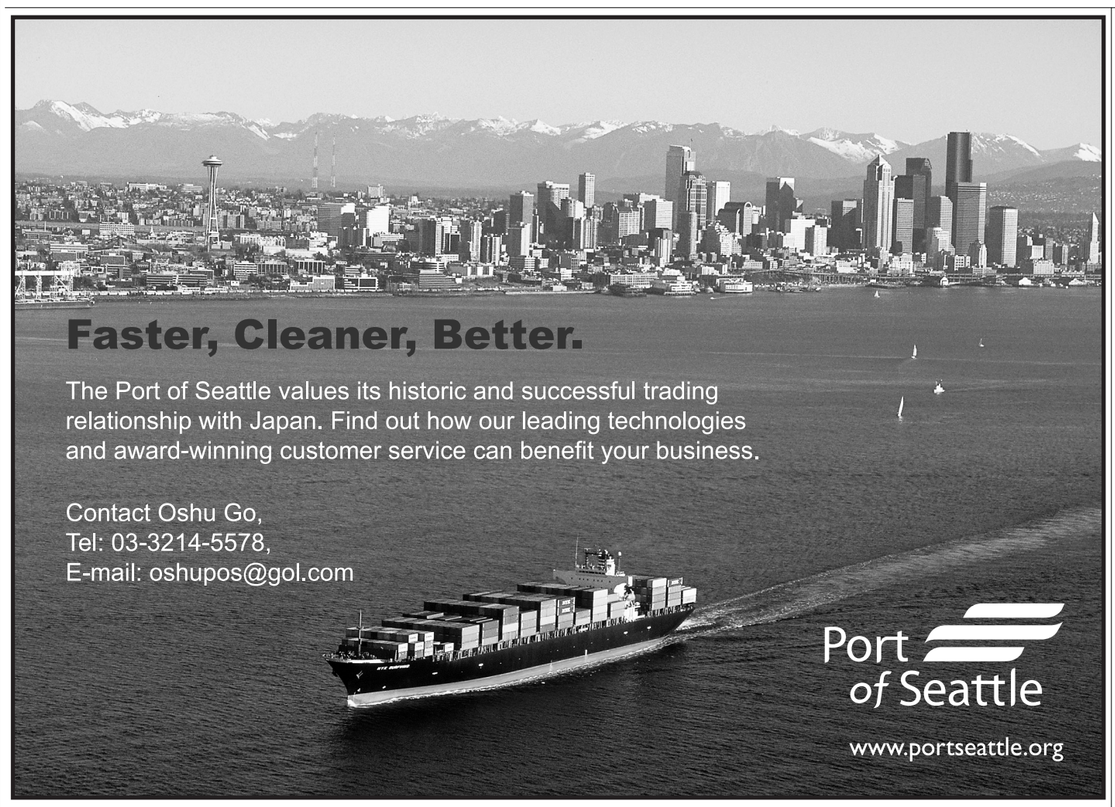
中国全港湾コンテナ／上半期17％増6165万ＴＥＵ。伸び率が鈍化傾向に

商船三井／ＪＡＳサービスを一部改編。ロスへのトランジットタイムを半日短縮へ

ＯＯＩＬ1－6月期／営業減益に

住友倉庫欧州法人／品質ＩＳＯ取得

ＮＣＡ／燃油割増料値上げ。来月から実施

貿易手続き改革プログラム／きょうフォローアップ会合開催

4－6月期決算▷日本通運／経常益5％減山九／経常益4％減▷宇徳／経常益5割増▷三菱倉庫／経常益1割増▷杉村倉庫／経常益4割増▷全日本空輸／経常益10％増